

教科名	公民	単位数	3単位	学科・学年	普通科 1年
教科書名	高等学校 改訂版 新現代社会			出版社名	第一学習社
副教材等	なし			出版社名	なし
科目目標	広い視点に立ち、現代の社会について主体的に考察し、理解を深めるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。				
到達目標 (検定目標)	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視点に立って現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
成績評価	定期考査、小テスト、課題、提出物、授業態度などをもとに、評価の観点により総合的に評価します。				
評価規準	関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能・表現 知：知識・理解				

授 業 計 画

月	授 業 内 容	授 業 目 標	評価の観点			
			関	思	技	知
4 ・ 5	第1編 私たちの生きる社会 世界のさまざまな課題 1. 環境と私たちの生活 2. 資源・エネルギー問題と私たちの生活 3. 科学技術の発達と私たちの生命 4. 高度情報社会と私たちの生活	<ul style="list-style-type: none"> これから学習していくさまざまな課題が世界には存在していることを理解する。 さまざまな環境問題と人間の活動とのかかわりについて、教科書掲載の写真や地図を使いながら理解する。 環境問題への国際的取り組みを踏まえ、自然と共生するよりよい環境を次の世代に引き継ぐためにはどうしたらよいか考える。 資源の有限性について理解を深め、原子力発電の問題を例に、資源・エネルギー問題について多角的に考える。 エネルギー政策の見直しとともに新エネルギーの現状について理解し、省エネルギーと循環型社会について考える。 科学技術の発達が社会や生活をどのように変えてきたか考える。 生命倫理をめぐる問題について、どのようなものがあるかを調べ、それらについて現状と課題をまとめる。 高度情報社会とは何かについて理解し、情報化の進展が社会に及ぼす影響について調べ、理解する。 	●	●	●	●

5	<p>第2編 現代社会の人間としてのあり方生き方</p> <p>第1章 青年期と自己の形成</p> <p>①青年期とは</p> <p>②青年期を充実させるために</p> <p>③自立に向けて</p> <p>④伝統や文化とのかかわり</p> <p>⑤社会とのかかわり</p> <p>⑥私たちの生きがい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人生の中で青年期はどのような意味をもつのかを考え、青年期における様々な悩みと、それを克服するためにはどのようにすればよいか考える。 伝統や文化と自らの行動様式や考え方の関係について考察する。 職業の持つ意味、社会に参画することの意義について調べ、一人ひとりが社会づくりに参画していく必要のあることを理解する。 生涯にわたって学習していくことの意義を考える。 	●	●	●	●	●
6	<p>第2章 個人の尊重と法の支配</p> <p>①個人と国家</p> <p>②基本的人権と法の支配</p> <p>③世界の政治体制</p> <p>第3章 現代の民主政治と政治参加の意義</p> <p>①日本国憲法の基本原理</p> <p>②平和主義と日本の安全保障</p> <p>③冷戦終結後の防衛問題</p> <p>④平等に生きる権利と自由に生きる権利</p> <p>⑤豊かに生きる権利</p> <p>⑥新しい人権</p> <p>⑦基本的人権と公共の福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活と政治や国家のかかわりについて関心を高め、国家はどのような考え方を背景に作られたのかを理解する。 基本的人権が保障されるに至った経緯を、さまざまな情報手段で資料を収集し、具体的事例を挙げて考察し、理解する。 世界の主な政治体制について教科書の図などを使って理解し、真の民主政治の実現と関連させて考察する。 日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較、日本国憲法の三つの基本原理について主体的に理解する。 平和主義をめぐる、どのような動きがあったのかを理解する。また、自衛隊をめぐる問題について理解する。 日米安保体制はどのような背景から生まれ、どう変化してきたのか理解する。 身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について調べ、その解決策を考える。 社会権が私たちの生活をどのように変えたかを考える。また、新しい人権にはどのようなものがあるか理解する。 	●	●	●	●	●
7	<p>⑧国会の運営と権限</p> <p>⑨内閣と行政の民主化</p> <p>⑩裁判所と人権保障</p> <p>⑪法と私たちの生活</p> <p>⑫地方自治と住民の福祉</p> <p>⑬選挙制度の現状と課題</p> <p>⑭与論の形成と政治参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> 議会制民主主義とはどのようなものか、国権の最高機関である国会について理解する。 議院内閣制のしくみ、内閣の組織と権限について理解し、行政の民主化のために何が必要か考える。 裁判員制度を含む公正な裁判のための制度について理解する。また、憲法を守るための裁判所の権限について理解する。 法と道徳の違いについて考え、お互いが幸福な生活を送るために必要な方について話し合う。 地方自治の意味と地方自治の発展のための課題について自分自身の問題として具体的に考える。 国会議員の選挙制度はどのようなしくみか、また、どのような課題があるのかを理解する。 国民が政治に参加する方法にはどのようなものがあるかささまざまな手段を使って調べ、住民にとって生活しやすい政治のために必要な行動を話し合う。 	●	●	●	●	●

9	<p>第4章 国際政治の動向と日本の役割</p> <p>①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③第二次世界大戦後の国際社会 ④冷戦終結後の国際社会 ⑤核兵器の廃絶と国際社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主権国家とはどのようなものか、国際社会における国際法の役割と限界について理解する。 国連の成立、役割と課題について理解する。 第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況について理解する。 核兵器を廃絶するためにどのような取り組みが行われているか、また、国際平和のために何をしなければならないか、さまざまな情報手段を活用して調べる。 	●	●	●	●	●	●
10	<p>⑥地域紛争と人種・民族問題 ⑦国境と領土問題 ⑧日本の役割と私たちの生きかた</p> <p>第5章 現代の経済社会と私たちの生活</p> <p>①経済と私たちの生活 ②経済体制の変容 ③現代の企業 ④市場のしくみ ⑤経済成長と景気変動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 民族や宗教の対立による紛争にはどのようなものがあるか、人種・民族紛争の実態、難民問題について理解する。 国境と領土問題や日本の領土問題について、教科書の写真・地図を使用して理解する。 国際社会における日本の役割、国際社会の一員として何をすべきか考える。 私たちの生活と密接にかかわる経済の基本的なしくみを理解する。 企業の活動内容、社会的責任について理解し、株式会社の特徴についてまとめる。 市場の基本である需要と供給との関係について、正しく理解する。 景気変動について理解し、経済成長は生活にどのような変化を与えるのかを調べる。 	●	●	●	●	●	●
11	<p>⑥財政のしくみと税金 ⑦金融機関のはたらき ⑧戦後日本経済のあゆみ ⑨日本経済の現状と展望 ⑩技術革新の進展と産業構造の変化 ⑪中小企業の現状と役割 ⑫食の安全とこれからの日本の農業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 政府はどのような経済的役割をもっているかを理解する。また、財政の機能と役割、課題を理解する。 金融機関の果たしている役割、中央銀行の金融政策について理解する。 第二次世界大戦終結から現在まで、日本の経済発展のあゆみについて年表を使って理解し、現在の日本の経済の課題と新たな取り組みについて考える。 技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化などについて、身近な問題と関連させて考察する。 中小企業の現状と役割について理解する。 日本の農業政策の推移を理解し、これからの日本の農業、食糧政策などの問題について考える。 	●	●	●	●	●	●
12	<p>⑬雇用と労働問題 ⑭労働環境の整備 ⑮公害の防止から環境保全へ ⑯消費者問題と消費者主権 ⑰社会保障と福祉社会 ⑱これからの社会保障</p>	<ul style="list-style-type: none"> 労働基本権について理解し、近年の雇用事情の変化について考え、さまざまな労働問題について、具体的事例を挙げて多角的に考察する。 公害の原因と、それに対する国・企業の責任について理解し、公害を防止するためにはどうすべきか考える。 消費者は契約についてどのような自覚が必要かを考え、消費者問題に対する企業の責任や国の対策について理解する。 日本の社会保障制度の特徴、少子高齢社会の課題について理解する。 消費者問題、日本の社会保障について、さまざまな情報手段を活用して情報を収集し、調査した内容をまとめて話し合うなど、適切に表現する。 	●	●	●	●	●	●

1	<p>第6章 国際経済の動向と日本の役割</p> <p>①国際分業と貿易 ②国際経済体制のあゆみ ③国際収支と為替相場 ④国際経済の動向 ⑤進む地域的経済統合 ⑥発展途上国の経済と南北問題 ⑦国際社会のこれから</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自由貿易と保護貿易の違いについて考え、自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割について理解する。 自由貿易推進のために国際的な協調体制がとられてきた経緯を理解し、国際収支の変化、為替相場の変動が経済に及ぼす影響について理解する。 貿易の意義、円高・円安の生じる理由、経済のグローバル化について考え、身近な事例をもとにレポートを作成するなど、適切に表現する。 日本の貿易やアメリカ、アジアなどの貿易について理解し、貿易の拡大とそれにともなう貿易摩擦について、具体的事例をあげて考察する。 国際経済機構や地域的経済統合にはどのようなものがあるか理解する。 南北問題の原因、発展途上国のかかえている問題について理解し、南北問題解決のために日本は何をすべきか考える。 	●	●	●	●	●	●	
2	<p>第7章 民主社会に生きる倫理</p> <p>①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③近代の西洋社会に見られる考え方 ④近代市民社会から大衆社会へ ⑤他者とともに生きる ⑥豊かな社会の実現に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> 哲学や宗教の役割を理解するとともに、人生を豊かに生きるとはどういうことなのかを多角的に考察する。 日本の伝統意識を理解し、生活の中での仏教や儒教、西洋思想の影響について、具体的事例をあげて考察する。 人間の尊厳や科学的なものの考え方、民主的社会を樹立するために必要な考え方の理解を深めるため、図版や原典資料を適切に使用する。 平等な社会の実現には、偏見を取りのぞき、主体的に努力することが求められていることを理解する。 差別を生み出す偏見について考え、それを克服して、ともに生きるために私たちは何をすべきか、自分自身の問題として考える。 	●	●	●	●	●	●	
3	<p>第3編 とともに生きる社会をめざして</p> <p>①社会保障と消費税 ②クジラは野生保護動物か、水産資源か ③人口問題と私たちの未来</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に掲載されている図版や写真・資料などを適切に使用し、政治課題としてよく取り上げられる消費税について考えたり、捕鯨問題について考えたり、人口問題を通して私たちの未来を考察したりする。 調べた内容をまとめて発表したり、レポートを作成したりするなど、適切に表現する。 	●	●	●	●	●	●	
<p>【履修上の注意およびワンポイントアドバイス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノートを忘れないようにしましょう。 授業、家庭学習に真剣に取り組み、日々努力しましょう。 									